



平成 28 年度 体験活動プログラム 活動報告

体験活動の推進に関するワーキンググループ
2017/03/31

目次

I	体験活動プログラム実施概要.....	1
II	体験活動プログラム活動報告.....	3
III	ふるさとインターンシップ実施概要及び活動報告	35
IV	体験活動プログラム活動報告会	37
V	付録	
	・体験活動プログラム概略	41

I 体験活動プログラム実施概要

●概要

学部前期・後期課程の学生を対象とし、大学生活とは異なった考え方や発想、行動様式又は価値観と触れ合うための多様な形態と内容のプログラムを提供するものです。

平成 24 年度に「体験活動に関するワーキンググループ」を設置し、平成 24 年度には 176 名が活動に参加、さらに平成 25 年度以降は研究室体験活動プログラムを加え、毎年 300 名以上の学部学生を様々な体験の場に送り出しています。

●平成 28 年度体験活動プログラム実施データ

<プログラムの件数および募集人数>

○ 提供プログラム数：112 件、活動実施プログラム数：90 件、募集人数：674 名

区分	プログラム提供件数	プログラム実施件数	募集人数
国内プログラム	65 件(58%)	51 件(57%)	392 名(58%)
海外プログラム	19 件(17%)	19 件(21%)	157 名(23%)
研究室プログラム	28 件(25%)	20 件(22%)	125 名(19%)
全プログラム	112 件(100%)	90 件(100%)	674 名(100%)

<出願、参加状況>

- 全プログラムでの総募集人数 674 人に対し、出願者数は 553 名(82%:募集人数比)、出願者のうち、参加者数は 384 名(69%:出願者数比)。
- 国内プログラムは総募集人数 392 名に対し、出願者数は 210 名(54%:募集人数比)、出願者のうち、参加者は 181 名(86%:出願者数比)。
- 海外プログラムは総募集人数 157 名に対し、出願者数は 271 名(173%:募集人数比)、出願者のうち、参加者は 138 名(51%:出願者数比)。
- 研究室プログラムは総募集人数 125 名に対し、出願者数は 72 名(58%:募集人数比)、出願者のうち、参加者は 65 名(90%:出願者数比)。

区分	総募集人数	出願者数	参加者	不採択者
国内プログラム	392 名	210 名 〈54%〉	181 名 《86%》	29 名 《14%》
海外プログラム	157 名	271 名 〈173%〉	138 名 《51%》	133 名 《49%》
研究室プログラム	125 名	72 名 〈58%〉	65 名 《90%》	7 名 《10%》
全プログラム	674 名	553 名 〈82%〉	384 名 《69%》	169 名 《31%》

〈 〉内は募集人数との比率、《 》内は出願者数との比率

なお、プログラムに出願し、不採択となった者が別のプログラムに出願しているため、出願者数は延べ数を示す。

また、研究室プログラムについては複数の申請が可能となっており、出願者数及び参加者数は延べ数を示し、不採択者数には採択後に参加を辞退した者及び活動中止となったプログラムに参加を予定していた学生の数を含む。

<採択者の属性>

◆男女別内訳

○ 参加者 384 名の男女別内訳は、男子学生が 225 名(59%)、女子学生が 159 名(41%)。

	男子学生	女子学生	計
参加者の男女別内訳	225 名 (59%)	159 名 (41%)	384 名 (100%)

◆学年別内訳

○ 参加者 384 名のうち、学部前期課程学生は 233 名(61%)、学部後期課程学生は 151 名(39%)。

○ 参加者 384 名の学年別内訳は、1 年生 78 名(20%)、2 年生 155 名(40%)、3 年生 107 名(28%)、4 年生 42 名(11%)、5 年生 2 名(1%)、6 年生 0 名(0%)。

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	計	男子	女子
法			10 名	9 名			19 名	12 名	7 名
医			4 名	1 名	2 名		7 名	2 名	5 名
工			35 名	8 名			43 名	28 名	15 名
文			7 名	7 名			14 名	4 名	10 名
理			8 名	7 名			15 名	14 名	1 名
農			10 名	1 名			11 名	6 名	5 名
経済			4 名	4 名			8 名	5 名	3 名
教養	78 名	155 名	19 名	1 名			253 名	146 名	107 名
教育			4 名	4 名			8 名	4 名	4 名
薬			6 名	0 名			6 名	4 名	2 名
計	78 名	155 名	107 名	42 名	2 名		384 名	225 名	159 名

教養学部欄の「1 年」、「2 年」の欄は、前期課程の学生を示す。

◆学部前期課程学生の科類別内訳

	文一	文二	文三	理一	理二	理三	計
1 年	16 名	9 名	15 名	19 名	16 名	3 名	78 名
(国内)	8 名	8 名	8 名	7 名	6 名	1 名	38 名
(海外)	8 名	1 名	4 名	4 名	5 名	1 名	23 名
(研究室)	0 名	0 名	3 名	8 名	5 名	1 名	17 名
2 年	33 名	24 名	29 名	33 名	35 名	1 名	155 名
(国内)	19 名	12 名	14 名	14 名	16 名	1 名	76 名
(海外)	12 名	9 名	14 名	11 名	8 名	0 名	54 名
(研究室)	2 名	3 名	1 名	8 名	11 名	0 名	25 名
計	49 名	33 名	44 名	52 名	51 名	4 名	233 名

II 体験活動プログラム活動報告

国内プログラム名称		ページ数			
1	療育を知ろう	4	47	伊豆の体験活動～南伊豆という地域との連携に学ぶ～	19
2	東大こだま分教室の学習支援	4	48	北海道の道庁博物館における学芸員体験と厳冬のオホーツク文化体験	19
3	さいかち学級の学習支援(品川区立清水台小学校)	4	49	農村版大学コンソーシアム木島平校 夏季講座 ～集落に“学生の拠点”をつくろう！～	20
4	そよ風分教室の活動支援	5	50	地域いいとこ発見プロジェクト～フィールドワークから学ぶ地域の健康～	20
5	「学びのポイントラリー」地域教育支援参加	5	51	スタートアップ支援活動～スタートアップを知ろう～	20
6	在宅医療・介護体験プログラム	5	海外プログラム名称 ページ数		
7	東大病院入院中の難病の子どもの家族を支援するドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンのインターンシップ	6	1	中国訪問+キャンパスツアーと学生交流	21
8	TSCP学生委員会による本学低炭素キャンパス活動	6	2	上海および上海近郊の地方都市を中心とした国際交流体験活動	21
9	日本語教室でのボランティア	6	3	大学・企業・文化体験 in 韓国～韓国を知る、韓国から日本を見る～	21
10	石垣島白保のサンゴ礁調査 赤土流出のモニタリングと現地文化体験	7	4	シンガポールでビジネスを学んでみよう	22
11	種子島のアカウミガメ調査	7	5	医学と平和	22
12	超人口減少・少子高齢化・財政難の離島中山間地域の公立塾で学習支援と課題発見・解決プロジェクト	7	6	新興国インドでの体験活動-インド赤門会との交流・IIT-K日本語授業サポート	22
13	Disaster-Resilient Planning, Design + Reconstruction	8	7	TOPS (Tokyo Oxford Programme of Summer)	23
14	旧・博物館動物園駅の進化と再生提言を軸にしたアートによる上野・谷中の地域活性化活動	8	8	英国ロンドン、海外で働くとは	23
15	困難を抱える子ども達の自然体験活動をサポート！～海で・山で・川で～	8	9	VE,italia-Veneto Experience	23
16	子ども達の自然体験活動をサポートするリーダーにチャレンジ！～山・海・川・湖でダイナミックな体験を～	9	10	フランスEcole Polytechniqueにおける研修(理系)	24
17	Documentary research for the French Embassy	9	11	アラブ首長国連邦の「いま」: 沸騰都市ドバイ、未来都市マスカール、石油都市アブダビ	24
18	学術出版の体験的学習	9	12	ハーバード大学医学部研究室の訪問・ディスカッション	24
19	「復興留学」～復興まちづくりの業務体験～	10	13	Work experience in the international venture business in Boston	25
20	明石市役所での就労体験事業	10	14	「日本とアメリカの現在と未来: ドキュメンタリー映像制作@ロサンゼルス」	25
21	未来を指向する地方自治体の活動への参加	10	15	アメリカで事業をすることの素晴らしさとチャレンジ(内側からアメリカ社会をみてみよう)	25
22	陶板複製名画美術館を体験する	11	16	国連(NY)での会議に学生ボランティアとして参加	26
23	地方高校活性化計画	11	17	有機農場での Community Supported Agriculture 体験(米国)	26
24	地方創生の先進地に飛び込め！岩手県大槌町 長野県小布施町 鹿児島県長島町	11	18	オーガニック農場での Sustainable agriculture 体験(米国)	26
25	1次産業の新たな可能性を考える～グリーンツーリズムの現場から～	12	19	世界の情報発信の中心地、ニューヨークの脈動を体感してみよう	27
26	ハードウェアベンチャーを支えるものづくり企業でオリジナル新商品を作り出せ！	12	研究型プログラム名称 ページ数		
27	「北陸発日本の未来が宿る場を創る」×訪日外国人インバウンドWebメディア	12	1	再生医療の研究開発に触れる	28
28	JICAの国内研修現場で国際協力を知る	13	2	「医学の知」の体験-手術とは何か? 体内臓器を探ってみましょう!	28
29	誰も知らない京都を作り出せ!～東大生しかつかれない旅行プラン@KYOTO～	13	3	臨床の死生学	28
30	科学技術大ニッポンの未来を担う知識プラットフォームでの武者修行!	13	4	農地環境サンプルの放射性核種の検出と測定	29
31	リアルシムシティ-東大脳で理想の街を作り出せ!! ヒントは鉄道にアリ!!	14	5	植物バイオテクノロジー体験	29
32	犯罪被害者支援に関する事業の実施	14	6	脳・身体と精神のシステム論的研究への誘い	29
33	加賀温泉郷まるごとキャンパス体験	14	7	クラスター計算機の試作と並列計算	30
34	カンキツの収穫・販売体験から中山間地域の底力考える	15	8	水循環・水資源研究短期体験	30
35	測量船による海洋観測実地体験	15	9	機能分子をつくらせよう(機能性錯体化学研究室短期体験)	30
36	文化ワークショップを基本とした過疎・高齢地区のまちづくり体験プロジェクト	15	10	量子力学・表面科学短期体験	31
37	持続可能な社会を目指すエネルギー系ベンチャー企業でのインターン@東北	16	11	海洋微生物ナノ計測体験	31
38	おじやり申せ種子島! 宇宙に最も近いディープな島まるごと体験プログラム	16	12	知能移動ロボットの行動と制御	31
39	おじやり申せ種子島! 宇宙に最も近いディープな島まるごと体験プログラム(冬編)	16	13	モーションセンサによる人間行動認識手法の研究	32
40	学術成果の国際発信を現場で体験: あなたも UTokyo Research 編集部の一員に!	17	14	宇宙とラボをつなぐプラズマ物理	32
41	農業・牧場作業体験@北海道	17	15	利根川水系におけるニホンウナギの生態学的研究	32
42	中山間地域(花巻市大迫町)での農業体験(ぶどう栽培)と生産者・住民との交流体験	17	16	発達障害のある子どもを対象とした認知心理実験の現場体験	33
43	希望学プロジェクト ふくい体験プログラム	18	17	DO-IT (Diversity, Opportunities, Internetworking and Technology) Japan	33
44	中山間地域を見る・感じる・考える～北海道鹿角町で、今後の中山間地域・地方創生について考えよう	18	18	天文学・宇宙物理学における最先端研究を体験する	33
45	TPPと日本の畜産	18	19	演習環境をもちいたサイバーセキュリティ体験活動	34
46	森が社会に貢献する-持続可能な森づくりへの挑戦-	19	20	生体分子から動物個体まで～生物化学の研究体験	34

【国内プログラム】

01. 療育を知ろう

日本で最初に開設された重症心身障害児施設で、発達障害を持つ子供の外来・リハビリの見学、通所施設を見学した。療法士が子供たちの苦手を解消していく過程や、痰の吸引や食事介助、排泄介助などの重症心身障害の医療的ケアや、言葉、表情、身振りなどをフルに使った職員とのコミュニケーションを見学し、子供と直接話をしたり、遊んだり、保護者の方に話を伺ったりした。



リハビリの補助

日 程： 2016/8/2(火)-8/12(金)
参加学生： 1名
活動場所： 東京都八王子市 島田療育センターはちおうじ
備 考： 島田療育センターはちおうじ
<http://www.shimada-ryoiku.or.jp/shima8>



通所施設

02. 東大こだま分教室の学習支援

東京大学医学部附属病院の院内学級である東大こだま分教室にて、長期入院の小学生から高校生に授業のアシスタントを行った。医療現場で障害のある児童や生徒に向かい合い、命の大切さを学んだ。また、学習発表会をはじめとした学校行事にも参加し、入院中の子供の成長を促す学校の役割についての考えを深めた。活動期間中にはほかの院内学級の見学も行った。



東京大学医学部附属病院

日 程： 2016年8月-2017年3月、各自定められた日程
参加学生： 4名
活動場所： 東京大学医学部附属病院東大こだま分教室(本郷キャンパス)
備 考： 東京都立北特別支援学校 東大こだま分教室
<http://www.h.u-tokyo.ac.jp/kodama/top/top.htm>



こだま分教室

03. さいかち学級の学習支援(品川区立清水台小学校)

昭和大学病院の院内学級であるさいかち学級にて授業の補助業務に携わった。授業は、子供達が勉強に身が入り、楽しめる様に先生と一緒に問題を解いたりヒントを出したりしながら、入院前に子供達が通っていた学校の宿題や、問題集を解き進めていく。主にそのサポートを行った。重い病気や障害などで入院しなければならない子供達にとって「さいかち学級」は生活のリズムを作り、学習の機会を持つという意義がある。病弱教育について幅広く学ぶ機会を得た。

日 程： 2016年8月下旬-2017年3月、定められた日程
参加学生： 1名
活動場所： 昭和大学病院さいかち学級(東京都品川区)
備 考： さいかち学級
<http://www.showa-u.ac.jp/SUH/guide/saikachi/>
NHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」
<http://www.nhk.or.jp/professional/2011/0124/index.html>

04. そよ風分教室の活動支援

国立成育医療研究センター内の院内学級である、東京都立光明特別支援そよ風分教室にて、教員の補助業務に携わった。入院中の子供たちを病棟から教室まで送迎補助し、話し相手や受験相談、遊び相手として、入院生活を送っている児童や生徒と向かい合い、自分が社会の一員としてできることや病児教育について考える機会を持った。

日 程： 2016年8月-2017年3月、各自定められた日程

参加学生： 1名

活動場所： 国立成育医療研究センター・そよ風分教室
(東京都世田谷区)

備 考： 東京都立光明特別支援学校

<http://www.komei-sh.metro.tokyo.jp/site/zen/1>



そよ風分教室

05. 「学びのポイントラリー」地域教育支援参加

地域で行われている教育プログラム「学びのポイントラリー」に運営側として関わった。毎月の定例会に出席して学外の関係者と意見交換をするだけでなく、「東大探検ツアー」を企画し実施した。実際にイベントの企画、実施、運営を行ったことや、子供たちと接する中で、楽しく学ぶという視点を持った。また、学校の授業とは異なるプログラムを提供する地域の教育活動支援の実際についても知る機会を得た。

日 程： 2017年1/18(水)-3/25(土)

参加学生： 2名

活動場所： 東京都文京区・江東区・台東区・渋谷区 他

備 考： 地域の学び推進機構 <http://www.chiiki-manabi.org/index.html>



東大探検ツアー

06. 在宅医療・介護体験プログラム

柏市役所での医療介護に関する会議を傍聴したあと、医療介護の多職種による事例検討会の運営手伝いと検討会に参加した。会議では属人的なレベルまで落とし込んで計画を行い、立場による視点の違いや、その違いを超えた協力の在り方について考える場を持った。また、それぞれのケースで全く異なるサービスを提供する訪問介護に同行した。地域で運営されている昼食会で高齢者から話を聞きながら食事をした。

日 程： 2016年8月-10月、各自定められた日程

参加学生： 2名

活動場所： 千葉県柏市

備 考： 柏市 長寿社会に向けたまちづくり～地域包括ケアシステムの具現化に向けて～

<http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/060200/p011002.html>

東京大学高齢社会総合研究機構 <http://www.iog.u-tokyo.ac.jp/>

東京大学医学部在宅医療学拠点 <http://chem.umin.jp>

訪問看護ステーションビュートゾルフ柏 <http://neighborhoodcare.jp/>

07. 東大病院入院中の難病の子どもを支援するドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンのインターンシップ

ドナルド・マクドナルド・ハウス東大を利用する患者家族を支援する活動に参加した。主に事務ワークやハウスキーピングをボランティアスタッフと一緒にいき、患者家族と交流する中で、ハウスや医療支援についての理解を深めた。また、東大ハウスの告知や広報活動にも参加し、学生ならではの目線で新たな広報手法を検討した。全国のドナルド・マクドナルド・ハウスを運営する財団での活動では、他のハウス見学や東大病院の見学等、様々な活動を通してハウスや医療支援についての理解を深めた。

日 程： 2016年9月-12月、各自定められた日程
参加学生： 2名
活動場所： 本郷キャンパス 医学部附属病院隣接の東大ハウス
備 考： 東大ハウス
<http://www.dmhcj.or.jp/house/list/todai.html>

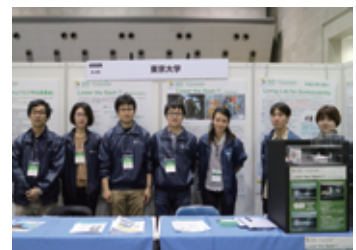


東大ハウス

08. TSCP学生委員会による本学低炭素キャンパス活動

東大サステイナブルキャンパスプロジェクト(TSCP)学生委員会スタッフとして職員と共にTSCP活動に参加した。具体的には、TSCP定例会への参加、日本最大級の環境展示会エコプロダクツへの出展およびその準備を行った。エコプロダクツに来場する子どもから高齢者まで幅広い年齢層にTSCPの紹介が行えるよう、パネル作りや説明方法を工夫することで、多くの人に関心を持ってもらえる機会となった。

日 程： 2016/7/19(火)-2017/3/31(金)、定められた日程
参加学生： 1名
活動場所： 本郷キャンパス
サステイナブルキャンパスプロジェクト室
備 考： <http://www.tscp.u-tokyo.ac.jp/>



エコプロダクツへの出展

09. 日本語教室でのボランティア

工学系研究科の日本語教室の初級、中級、上級いずれかのクラスに参加し、教員のアシスタントを行った。具体的には、グループワークや会話のパートナー、ディスカッションや留学生のプレゼンテーションの聞き手として参加した。多様な文化的背景を持つ留学生と交流する中で、自分と異なるものの見方や考え方、日本語のおもしろさや難しさに触れ、国際的感覚を養った。また、留学生と共に茶道や生け花体験、湯島の菊祭りなどのイベントに参加することで、日本文化について外からの視点で考える機会となった。

日 程： 2016年10月-2017年1月、各自定められた日程
参加学生： 4名
活動場所： 本郷キャンパス 大学院工学系研究科(工学部8号館)
備 考： 東京大学大学院工学系研究科日本語教育部門
<http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/>

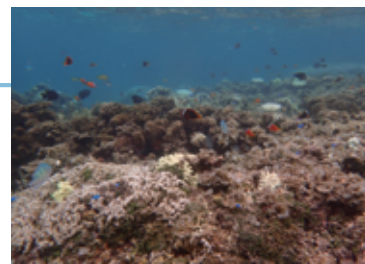


事前打ち合わせでクラス決め

10. 石垣島白保のサンゴ礁調査 赤土流出のモニタリングと現地文化体験

沖縄県の石垣島を訪問し、島内白保地区の珊瑚礁調査と、珊瑚礁生態系に影響を与えている陸上からの赤土の海洋流入について、その実態をモニタリング調査した。具体的には、スノーケリングで海に潜り、海水を採取し赤土堆積量の調査を実施した。また、現地滞在中はホームステイを体験し、住民と海とのかかわりについて聞き取り調査を行った。活動前は事前に学内で沖縄の海洋生態系およびその漁業資源を利用する地域の人々についてのレクチャーを受けることで、海洋生態系と、それを活用する沿岸漁業従事者に対する理解を深めることができた。

日 程： 2016/9/9(金)-9/12(月)
参加学生： 3名
活動場所： 沖縄県石垣市
備 考： 認定特定非営利活動法人 アースウォッチ・ジャパン
<http://www.earthwatch.jp/index.html>



海に潜って赤土採取

11. 種子島のアカウミガメ調査

鹿児島県種子島を訪問し、中種子町長浜海岸・南種子町前之浜海岸に産卵に訪れるアカウミガメの生態を学ぶとともに、産卵後の子ガメの孵化と脱出行動を夜間に観察した。また、標識装着作業等、フィールド研究を行う研究者の補助業務にも携わった。活動場所が種子島であることから、活動中は種子島宇宙センターの見学の機会にも恵まれた。また、活動前は本学教員からウミガメの保全に関する世界的な動向や、九州・種子島地方における漁業活動の現状、種子島宇宙センターと漁業者との関係について事前レクチャーを受けた。

日 程： 2016/8/26(金)-8/28(日)
参加学生： 2名
活動場所： 鹿児島県熊毛郡中種子町、南種子町
備 考： <http://www.earthwatch.jp/index.html>



アカウミガメの子亀



ボランティアの皆さん

12. 超人口減少・少子高齢化・財政難の離島中山間地域の公立塾で学習支援と課題発見・解決プロジェクト

島根県の離島と広島県の公立塾で、離島中山間地域における学力格差の解決を目的に、主に高校三年生の自習中の質問への対応と、生徒自身の勉強計画についてのアドバイスをを行った。また、寺社の参拝や盆踊りなど地域で大切にされている文化に触れた。もともからいた住民とプロジェクトに興味を持って入ってきた新しい住民との異なる価値観をお互いが尊重しあい、地域の魅力化に取り組んでいる姿を見ることができた。

日 程： 2016/8/7(日)-8/21(日)のうち、各自定められた2週間以上
参加学生： 2名
活動場所： 島根県隠岐島前海士町、広島県大崎上島町
備 考： <http://pripin.co.jp/>



高校生へのアドバイス

13. Disaster-Resilient Planning, Design + Reconstruction

大島各地区の町並みや建築を見るフィールド調査の後、MITと東大の学生でチームを組み、土砂災害からの復興プランをディスカッションし、町民にプレゼンテーションした。MIT教授の指導の下、町民の憩いの場所を、石垣とベンチをマンパワーで作る土木作業で完成させた。夜は盆踊り大会に参加し地元の人々と交流した。

日 程： 2016/7/27 (水)-8/5(金)

参加学生： 8名

活動場所： 伊豆大島

備 考： 復興デザイン研究体 <http://bin.t.u-tokyo.ac.jp/dss/>
MIT Japan 3/11 Initiative <http://japan311.scripts.mit.edu/wp/>



空き地のフェンス制作

14. 旧・博物館動物園駅の進化と再生提言を軸にしたアートによる上野・谷中の地域活性化活動

上野の杜芸術フォーラムが行っている博物館動物園駅の保存・再生活動に参加した。具体的には、京成電鉄の上野駅～博物館動物園駅～日暮里駅でのフィールドワークや京成電鉄職員との意見交換会への参加、藝術大学関係者による会議を聴講した。また、K7s Green Galleryにて月に1度開催される定例会では、上野アートクロスと呼ばれている交差点の歴史の変遷をエスノマップという形でビジュアル化するプロジェクトに携わった。活動では、上野の杜芸術フォーラムに関わる多くの関係者との交流を深めた。

日 程： 2016/8月-2017/1月

参加学生： 4名

活動場所： 台東区 上野公園～谷中地域

備 考： NPO上野の杜芸術フォーラム紹介ページ
<http://npo-db.info/東京都/新宿区/21538/>



定例会の様子



K7s Green Gallery (定例会開催場所)

15. 困難を抱える子ども達の自然体験活動をサポート！～海で・山で・川で～

静岡県中央青少年交流の家、鹿児島県の大隅青少年自然の家いずれかの活動に参加し、不登校など特定の課題を抱えた子供達を対象としたキャンプのサポートリーダーとして支援を行った。中央プログラムでは被災地(宮城・福島)や地元静岡の子供達と共にキャンプをしながら富士登山の練習を行った。大隅プログラムでは不登校に悩む子供達と共にゴムボートで漕艇を行った。活動を通して、自然体験活動に対する知識やコミュニケーション能力などサポートリーダーに必要なスキルを養った。

日 程： 静岡県 :2016/8/10(水)-8/18(木)

鹿児島県:2016/8/5(金)-8/12(金)、2017/1/7(土)-1/8(日)

参加学生： 3名

活動場所： 静岡県御殿場市、鹿児島県鹿屋市

備 考： 国立青少年教育振興機構 <http://www.niye.go.jp/>



富士登山練習



鹿児島湾をカヌーで漕覇

16. こども達の自然体験活動をサポートするリーダーにチャレンジ！ ～山・海・川・湖でダイナミックな体験を～

北海道の大雪青少年交流の家の活動に参加し、青少年を対象に豊かな人間性を育むための自然体験活動事業にサポートリーダーとして関わった。具体的には、小学校3年生から中学校1年生までの計20名を引率する学生ボランティアの1人として、子供達と一緒に富良野岳(標高1,912m)を登頂するため、プログラム前半に溪流の中や岩場、広大な丘を登るなどの練習を行った。その後、富良野岳に挑み、子供達の健康や安全、精神面のサポートを行いながら、全員で登頂に成功した。



トレッキング

日 程： 2016/8/2(火)-8/10(水)
参加学生： 1名
活動場所： 北海道上川郡
備 考： 国立青少年教育振興機構 <http://www.niye.go.jp/>

17. Documentary research for the French Embassy

生産技術研究所とフランス国立科学研究センターのジョイント研究所、LIMMSにフランス人を採用することを目的としたニュースレターの作成や国際交流イベント、日仏交流イベントの運営手伝いなどを行った。ニュースレターは研究所の紹介、在日フランス人研究員のインタビュー、日本語講座、行事の紹介を記事にした。国際交流イベントでは、各国から研究員が集まるNAMIS SCHOOLの遠足で、鎌倉観光の引率の手伝いと地図や各観光スポットの紹介を作成した。

日 程： 2016/7/22(金)-12/21(水)の週1、2日
参加学生： 1名
活動場所： 東京大学生産技術研究所
備 考： 2013年度のプログラムの様子
<http://www.ambafrance-jp.org/article7297>

18. 学術出版の体験的学習

活動の前半では、東京大学出版会の諸部局の活動内容や業界全体の概要に関するレクチャーを受け、出版業務全体についての理解を深めた。後半は編集業務に携わる職員の指導のもと、自分が作ってみたい本について実際に企画書を作成し、本の内容や著者、ページ数や価格なども含め、活動の最終日にプレゼンテーションを行った。企画案を作成する合間には、校正や目次作成などの編集作業の体験や、印刷会社や製本会社、取次企業等の訪問も行った。



東大出版

日 程： 2016/8/29(月)-9/16(金)
参加学生： 3名
活動場所： 駒場キャンパス一般財団法人東京大学出版会
備 考： 東京大学出版会 <http://www.utp.or.jp/>

19. 「復興留学」～復興まちづくりの業務体験～

官民一体の復興まちづくりを推進する釜援隊の活動に参加し、震災、復興について話を伺った後、観光客に向けた商品開発に関する調査を行った。観光物産課や漁業関係者にインタビューをしたり、特産の甲子柿のブランド化に向けた業務に携わった。また台風被害のあった地区の復旧作業では、泥かきなどを手伝い、多くの人々と交流した。場所によって被害の程度も復興にも大きな違いがあり、メディアでは知ることのできない震災の実態を知ることができた。

日 程： 2016/8/22(月)-9/5(月)
参加学生： 3名
活動場所： 岩手県釜石市近郊
備 考： 釜援隊 <http://kamaentai.org/>



台風被害の復旧作業



お世話になった釜援隊の皆様と

20. 明石市役所での就労体験事業

兵庫県明石市役所の政策部市長室、広報課、シティセールス課、市民相談室、政策部、それぞれの業務を担当し、定住を促進する業務の取り組みを含む、様々な話を伺い、それについて意見を述べた。シティセールス課では、明石市が東京のイベントに出店する「明石焼」店の宣伝アイデアを提案した。いろいろな職務経歴の人から話を伺う機会に恵まれた。

日 程： 2016/8/23(火)-8/31(水)
参加学生： 2名
活動場所： 兵庫県明石市内
備 考： 明石市 <https://www.city.akashi.lg.jp/>



明石市役所

21. 未来を指向する地方自治体の活動への参加

企業誘致、農業振興、保育施設の充実、病院施設や介護施設の充実など、様々な取り組みを行っている玉城町の実際の効果を理解するために、話を聞いたり、見学をした。また、職員や自治会長と神戸市の防災施設を訪れ、防災、減災を町ぐるみで考える必要についての意識共有をし、介護については高齢者に運動の機会を設ける事業を充実させ、「事後救済よりも事前予防」という対策の取り組みについて学んだ。最終日に役場関係者に向けて発表を行った。

日 程： 2016/8/15(月)-8/26(金)
参加学生： 3名
活動場所： 三重県玉城町
備 考： 玉城町役場 <https://kizuna.town.tamaki.mie.jp/>



玉城町役場

22. 陶板複製名画美術館を体験する

徳島の大塚国際美術館でギャラリートークを行った。まず、美術館設立の理念などのレクチャーを受けた後、来館者として職員のギャラリートークでコツや手順を学んだ。アートを身近に感じて貰うという目的で実施されている体験プログラムにも参加し、観客の視点を考えたのち、ギャラリートークで扱う作品を選定し、職員からの指摘をもとにブラッシュアップし、実際に来館者の前でトークをした。自分の知識を伝える難しさと、人に伝える楽しさを体験した。

日 程： 2016/9/9(金)-9/11(日)
参加学生： 7名
活動場所： 徳島県鳴門市大塚国際美術館
備 考： 大塚国際美術館 <http://www.o-museum.or.jp/>



ギャラリートーク



美術館員の方、先生方と

23. 地方高校活性化計画 (東京大学三四郎会 ミライウオーカープロジェクト)

地方の高校で業務を体験することで、教育格差の実態を理解し、活性化に関してどのような経営などの困難があるのかを学んだ。中学生の個別相談会への参加、学校説明会でのパネルディスカッションへの参加などの学校運営の補助、在校生の夏期講習のサポートなど学校での活動を行いながら、文理開成高校に対しての地域住民への聞き込み調査や、鴨川市長訪問、亀田総合病院などを見学し、最終日には学校への提言を行った。

日 程： 2016/8/2(火)-2016/8/6(土)
参加学生： 4名
活動場所： 千葉県鴨川市文理開成高校
備 考： 東京大学三四郎会
<http://ja-jp.facebook.com/todaisanshiro/>



教室から見える海

24. 地方創生の先進地に飛び込め！岩手県大槌町 長野県小布施町 鹿児島県長島町(東京大学三四郎会 ミライウオーカープロジェクト)

岩手県大槌町、長野県小布施町、鹿児島県長島町のいずれかの活動に参加し、地方創生の先進地の取り組みや現地住民との交流を通じて、「地方創生」や「まちづくり」を肌で感じた。大槌町では、役場での業務を中心に、震災復興に関わる行政の課題や、地域住民と行政の関わり方等について学んだ。小布施町では、小布施町長の右腕となり、小布施のまちづくりについて学びながら、地域の課題を分析し、その本質的解決に向けた政策・事業を考えた。長島町では、役場での業務を中心に、全国最年少副町長のもとで政策立案ならびにその実現を行った。

日 程： 2016年8月-9月の2週間程度
参加学生： 9名
活動場所： 岩手県大槌町、長野県小布施町、鹿児島県長島町
備 考： 東京大学三四郎会
<http://ja-jp.facebook.com/todaisanshiro/>



ごち網漁見学(長島町)



小布施町の皆様と

25. 1次産業の新たな可能性を考える～グリーンツーリズムの現場から～(東京大学三四郎会 ミライウォーカープロジェクト)

グリーンツーリズムを企画提案しているみなかみ町体験旅行で、滞在中の高校生と一緒に民泊をしながら農業や料理のプログラムに参加して、利用者の目線でグリーンツーリズムを体験した後、運営側としては、ブログを更新したり、受け入れやマラソン大会、祭りなどの手伝いをした。現地の人との交流で、人々の優しさや、新鮮な野菜たっぷりの食事など、安心感のある生活の良さを体験した。



みなかみ体験旅行

日 程： 2016/8/16(火)-8/25日(木)
参加学生： 2名
活動場所： 群馬県利根郡みなかみ町
備 考： 東京大学三四郎会
<http://ja-jp.facebook.com/todaisanshiro/>



野菜たっぷりの食事

26. ハードウェアベンチャーを支えるものづくり企業でオリジナル新商品を作り出せ！(東京大学三四郎会 ミライウォーカープロジェクト)

株式会社浜野製作所にて、卓上型チョコレートエンローバーという、チョコレートをコーティングする機械の原理試作を6人チームで取り組んだ。この試作には大きく分けて二つの役割があり、チョコレートエンローバーの機械自体の設計という役割と、市場調査をして得られた情報を設計担当者と相談して設計のデザインに落とし込み、価格や設計・製造のスケジュールを管理する企画という役割があった。活動中に実施した市場調査では、現在使われているチョコレートエンローバーの仕様や機能、価格等について、エンローバー製作会社やエンローバーを使っている製菓会社にヒアリングを行った。活動最終日にはプログラム関係者の前で成果発表を行った。

日 程： 2016/8/22(月)-9/9(金)
参加学生： 1名
活動場所： 東京都墨田区・株式会社浜野製作所
備 考： 東京大学三四郎会
<http://ja-jp.facebook.com/todaisanshiro/>

27. 「北陸発日本の未来が宿る場を創る」× 訪日外国人インバウンドWebメディア(東京大学三四郎会 ミライウォーカープロジェクト)

石川県金沢市にて、「シェア型複合ホテル～HATCHi～」立ち上げフェーズの企画立案、サービス現場での業務体験を行い、ターゲット(訪日外国人及び日本人観光客)へのサービス設計と現場での提供について学んだ。また、「HATCHi」に関する記事を訪日外国人向けWeb Magazine「MATCHA」で作成・発信する経験を通じて、PR・プロモーションの一連の流れ(課題発見、企画、広報)等を学びながら、金沢エリアの魅力を発信する記事の執筆を実際に担当し、取材技術、写真撮影、情報収集の業務を体験した。

日 程： 2016/8/2(水)-8/7(日)、9/12(月)-9/18(日)
参加学生： 1名
活動場所： 石川県金沢市、東京都台東区
備 考： 東京大学三四郎会
<http://ja-jp.facebook.com/todaisanshiro/>

28. JICAの国内研修現場で国際協力を知る (東京大学三四郎会 ミライウオーカープロジェクト)

JICA国内研修事業部において、全国拠点で行われている事業の分析(課題別研修での受入研修員の質問票集計と、その結果からの提言作成)、長期研修員用のハンドブック改訂作業を行った。また、活動中は地方の事業場での研修に参加するため、セルビアの現地スタッフに同行し、北海道帯広市にて海外研修員へのヒアリングや交流を行った。活動最終日は、体験の取りまとめをJICA職員に向けて発表した。

日 程: 2016/8/29(月)-9/16(金)
参加学生: 2名
活動場所: 東京都千代田区・独立行政法人国際協力機構
備 考: 東京大学三四郎会
<http://ja-jp.facebook.com/todaisanshiro/>



活動最終日の報告会の様子

29. 誰も知らない京都を作り出せ！～東大生しかつくりえない旅行プラン @KYOTO～ (東京大学三四郎会 ミライウオーカープロジェクト)

京都の観光に様々な形で関わる人たち、観光案内の編集長、ホテルの副支配人、ベンチャー企業社長、副住職、京都府庁観光担当者、JR東海の方から話を聞き、そこから得たヒントをもとに、実際の観光地を訪れ、新しい観光ビジネスプランを立てて、プレゼンテーションを行った。ビジネスプランを立てる際には「外国人」や「観光」という抽象的なくくりではなく、「東アジア人」や「寺社巡り・体験・買い物」等、具体的にターゲットを絞っていくことが重要だと学んだ。

日 程: 2016/8/20(土)-8/27(土)
参加学生: 4名
活動場所: 京都府内・株式会社のぞみ他
備 考: 東京大学三四郎会
<http://ja-jp.facebook.com/todaisanshiro/>



京都観光についての講義

30. 科学技術大国ニッポンの未来を担う知識プラットフォームでの 武者修行！

リバネスの実施する、テックプランターというビジネスコンテストに応募があった100チーム程の申請書を読み、自分で評価の高いと思ったアイデアとリバネスが最終選考に残したチームとの比較、検討を行った。また、リバネスが発行する高校生向けの科学雑誌、『someone』に掲載するため、高校生の取材を行った。その他、小学生から高校生に向けた実験教室やイベントに参加し、改めて科学の奥深さを確認した。

日 程: 2016/8/7(日)-9/4(日)、各自定められた日程
参加学生: 3名
活動場所: 株式会社リバネス
備 考: 東京大学三四郎会
<http://ja-jp.facebook.com/todaisanshiro/>

31. リアルシムシティー東大脳で理想の街を作り出せ！！ヒントは鉄道にアリ！！

本プログラムを通して、鉄道を軸とした地域開発に対する考え方や取り組みを学んだ。高松琴平電鉄では、高松市が進めているコンパクトシティ計画に基づいて行われる新駅開業について、当該開発エリアの現地視察を行い、拠点駅の整備の検討立案を行った。埼玉高速鉄道では、ダイヤや運行管理など、鉄道の運輸、安全に関わる部分について、また鉄道運営と沿線開発についてより詳細な知識を得た。エネルギーラボでは、鉄道会社が手がけている首都圏近郊駅ビル商業施設の現場に実際に赴き、現地で区画の有効活用法を考えた。

日 程： 2016/8/29(月)-9/16(金)
参加学生： 3名
活動場所： 香川県・高松琴平電気鉄道株式会社
埼玉高速鉄道、一般社団法人いなぎくらすクラス
備 考： 東京大学三四郎会
<http://ja-jp.facebook.com/todaisanshiro/>



埼玉高速車両基地



ことでん現場

32. 犯罪被害者支援に関する事業の実施

全国被害者支援ネットワークにて、犯罪被害者支援の歴史、民間支援団体の役割と機能について学んだ。また、全国ネットワークが開催する研修会等で必要なリストの作成、整備、管理を行った。本プログラムへの参加を通して、犯罪被害者支援の社会的意義を幅広く学んだ。

日 程： 2016年11月
参加学生： 1名
活動場所： 東京都文京区・認定NPO法人 全国被害者支援ネットワーク
備 考： 認定NPO法人 全国被害者支援ネットワーク
<http://www.nnvs.org/>

33. 加賀温泉郷まるごとキャンパス体験

市内を観光課の担当者と、三つの温泉街(山中、山代、片山津)、日本的な里山風景(橋立、東谷)、伝統工芸(山中漆器、九谷焼)など、各観光資源に触れ、加賀の魅力を再発見し、単に観光として訪れるだけではできないような幅広い体験をした。日本には残すべき価値のある文化が多く存在するが、発信に工夫が重要だと学んだ。最終日には市職員と2時間ディスカッションをし、観光戦略について意見を交わした。

日 程： 2016/8/22(月)-8/26(金)
参加学生： 7名
活動場所： 石川県加賀市
備 考： 加賀市 <https://www.city.kaga.ishikawa.jp/>



東谷地区大土町の里山風景



伝統工芸品

34. カンキツの収穫・販売体験から中山間地域の底力を考える

ファーム竹本で民泊をしながら、柑橘類を収穫して販売するまでの一連の行程を手伝った。普段なかなか知ることのない収穫の際の摘果や剪定から、販売する際の陳列方法や利益の配分への配慮についても学びつつ工夫をしながら実践した。作業に加えて江田島市内の施設を観光し、地域の人との交流を行った。その中で自動車が無くってはならない地域の現状、地方と東京の距離感や関係性について、実際に体験しながら考える機会を持った。

日 程： 2017/3/16(木)-3/20(月)
参加学生： 3名
活動場所： 広島県江田島市
備 考： ファーム竹本
<https://sites.google.com/site/farmtakemoto>



収穫時にファーム竹本の皆様と

35. 測量船による海洋観測実地体験

海上保安庁海洋情報部の測量船「昭洋」に乗船し、その業務を体験した。具体的には、自律型海洋観測装置(AOV)の投入、放射性物質含有量を調べるためのサンプルの採取、海水の塩分濃度や流速などを調べる機械の投入について、その補助業務に携わった。また、活動の後半では機関科や航海科といった船を運転し走らせる部署にて、24時間体制で行う船の運航業務を体験した。船内という限られた空間での食事の準備や風呂掃除などを含む集団生活は特に貴重な体験になった。

日 程： 2016/9/12(月)-9/19(月)
参加学生： 2名
活動場所： 日本近海
備 考： 海上保安庁海洋情報部
<http://www1.kaiho.mlit.go.jp/>



測量船昭洋の乗船式



食事の準備

36. 文化ワークショップを基本とした過疎・高齢地区のまちづくり体験プロジェクト

「ふらのみらいらぼ」という地域活性化活動で、老若男女が交流を深めるためのワークショップに参加し、地域の地形、歴史、文化を学び、地元の小学生と地産食材を使った料理作りを体験した。また、役場の方や小中学校教師、農家の方が集まる夕食会に同席する機会にも恵まれた。台風の被害を受けた隣町へ、一人一人の単位で復興支援に向かう富良野の人たちの人とのつながりの強さを感じ、その共同体の一部という感覚を持つ体験をした。

日 程： 2016/9/1(木)-9/4(日)
参加学生： 4名
活動場所： 北海道富良野市
備 考： ふらのみらいらぼ
<http://www.city.furano.hokkaido.jp/docs/2016040800010/>



参加メンバー



ワークショップ参加

37. 持続可能な社会を目指すエネルギー系ベンチャー企業でのインターン@東北

持続可能な社会の構築を目指し日本全国の各地域にてエネルギー事業を行う企業でのインターンを通し、エネルギー問題や地方の雇用不足といった社会的課題を体感した。また、太陽光発電所や日本では珍しい木質バイオマスを燃料とした商用地域熱供給プラントなど最先端のエネルギー事業の現場見学等を通して、エネルギーに関する最新の知見や、座学では得難い課題発見力や課題解決力、社会人として必要なマナーを学んだ。

日程： 2016年8月-9月、各自定められた2週間程度
参加学生： 3名
活動場所： 岩手県、宮城県
備考： サステナジー株式会社 <http://sustainergy.co.jp/>



太陽光発電所の掃除

38. おじゃり申せ種子島！ 宇宙に最も近いディープな島まるごと体験プログラム

鹿児島県西之表市(種子島)に2週間滞在し、農業、林業、漁業、酪農、福祉、医療、教育等、実際の現場をまるごと体験した。プログラム前半は、オリエンテーションや鉄砲館で種子島の歴史や概要を学び、島の祭り(鉄砲祭)や古田校区のソフトボール大会への参加を通して地元住民との交流を深めた。後半には、実際の現場での業務体験を通して離島が抱え、そして将来の日本が抱えるであろう社会問題について考え、プログラム関係者と議論を行った。最終日の報告会では、プログラムでの学びや気づきを西之表市に向けて発表した。

日程： 2016年7月-9月、各自定められた2週間
参加学生： 14名
活動場所： 鹿児島県西之表市(種子島)
備考： 西之表市役所 <http://www.city.nishinoomote.lg.jp>



安納芋の収穫



種子島高校

39. おじゃり申せ種子島！ 宇宙に最も近いディープな島まるごと体験プログラム(冬編)

鹿児島県西之表市(種子島)に2週間滞在し、農業、林業、漁業、酪農、福祉、医療、教育等種子島の産業を包括的に見る事ができた。サトウキビの収穫時期にあたり、黒糖作りの過程を見学したり、障害者支援NPOや桜祭りの手伝い、地元小学生との交流などの地域交流、最先端技術であるJAXAの見学など島の現状を多角的に捉える機会に恵まれた。市長や経済観光課の方々との意見交換会では今後の種子島のあり方についてディスカッションを行った。

日程： 2016年12月-2017年3月、各自定められた2週間
参加学生： 15名
活動場所： 鹿児島県西之表市
備考： 種子島観光協会 <http://tanekan.jp>
西之表市役所 <http://www.city.nishinoomote.lg.jp>



サトウキビ収穫作業



漁業

40. 学術成果の国際発信を現場で体験：あなたも UTokyo Research 編集部の一員に！

本学の学術成果を日英で発信するコミュニケーション活動を展開する、Utokyo Research編集部の一員としてコンテンツ作成(文章、動画などの制作・編集)、記者発表や公開収録などの現場に立ち会った。コンテンツ作成は主にEditor's Choiceという記事の企画書の作成で、協力していただける先生方のアポイントメントを取る段階まで企画を進めた。活動を通じて、大学の社会的意義や広報活動の目的について考える機会となった。

日 程： ①2016年8月-9月、②2017年2月-3月
各自定められた日程

参加学生： 3名

活動場所： 本郷キャンパス・本部広報室

備 考： UTokyo Research (日本語)

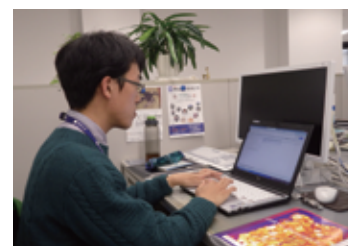
<http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/utokyo-research/>

UTokyo Research (English)

<http://www.u-tokyo.ac.jp/en/utokyo-research/>



記者会見に参加



本部広報室での作業

41. 農業・牧場作業体験@北海道

北海道美深町の農場・牧場で、農作業や牧場作業を体験した。農業体験では、キャベツ・絹サヤ・レタス・かぼちゃ・白菜・メロンなどの収穫、箱詰め・運搬、苗植えや草取りなども行った。牧場では、羊の餌、水、草やり、搾乳、放牧、出荷羊の体重測定など、羊に関わる一連の作業を体験した。最終日には、カヌーや森林浴トロッコ、美深町長の表敬訪問などを企画して頂き、産卵中の鮭を見ながら天塩川をゆっくり進むカヌー体験では、美深町の魅力を堪能した。

日 程： ①2016/8/22(月)-9/2(金)、②9/5(月)-9/16(金)
③2017/3/6(月)-3/17(金)

参加学生： 7名

活動場所： 北海道中川郡美深町

備 考： 美深町 <http://www.town.bifuka.hokkaido.jp/>

美深観光協会 <http://www.bifuka-kankou.com/>



かぼちゃの収穫



羊の搾乳

42. 中山間地域(花巻市大迫町)での農業体験(ぶどう栽培)と生産者・住民との交流体験

ぶどう栽培体験や神楽の練習見学、祭りの山車作り、商店街の散策などで住民と交流し、根強い地元のつながりや農業の協力関係、伝統文化を通じての世代を超えたつながりを体験した。また、農業や行政、それぞれの課題について知り、行政と住民の考え方の違いによる地方創生のあり方について学んだ。

日 程： 2016/8/3(水)-8/5(金)、9/6(火)-9/8(木)

参加学生： 3名

活動場所： 岩手県花巻市大迫町

備 考： オーストリア・ウィーン国際ワインコンクール2015受賞報告

<http://www.edelwein.co.jp/>

43. 希望学プロジェクト ふくい体験プログラム

越前コース、若狭コースのいずれかに参加した。越前コースでは、有機栽培された人参の収穫から店頭で並べるまでの作業を行い、エコ事業として生ゴミの回収とそれを堆肥にする施設を見学した。また、知事を表敬訪問する機会にも恵まれた。若狭コースでは、漁家民宿体験として、配膳や掃除などの手伝いを体験した。また、活動中は美浜原子力発電所を訪問し、構内のタービンや使用済み核燃料プール、原子炉の細部までを見学した。いずれのコースについても多くの地元住民との交流を通し、福井の産業や文化について理解を深めた。

日 程： 越前コース 2016/8/18(木)-8/22(月)
若狭コース 2016/8/25(木)-8/29(月)

参加学生： 8名

活動場所： 福井県嶺北地区、嶺南地区

備 考： 福井県庁 <http://www.pref.fukui.jp/>



生ゴミ回収(越前コース)



民宿の皆様と記念撮影(若狭コース)

44. 中山間地域を見る・感じる・考える～北海道鷹栖町で、今後の中山間地域・地方創生について考えよう

活動の前半は四季の里、ごみ処理場、田んぼアートフェスティバル、川村カ子トアイヌ記念館、社会福祉協議会、電牧柵、ホンダテストコース等、町内施設を見学する中で、鷹栖町の概要や歴史について学んだ。また、キュウリやトマトの収穫、さくらげの菌床に傷をつける作業や草刈り等の農業体験を通し、中山間地域の産業・生活の実情を実際に体験した。活動中は町長を表敬訪問する機会にも恵まれ、町民や様々な施設の職員との交流の機会を得た。

日 程： 2016/8/19(金)-8/25(木)

参加学生： 4名

活動場所： 北海道鷹栖町

備 考： 鷹栖町 <http://www.town.takasu.hokkaido.jp/>



現地職員による説明

45. TPPと日本の畜産

牛の世話や搾乳、馬、山羊、豚の世話、厩舎清掃、農機具の操作など、実際に家畜の肌に触れ、畜産農家の仕事を体験した。夜間は各国の養豚に関する資料を読み、日本の養豚農家の問題点をあぶり出し、TPPに対する解決策、対抗策を模索した。牧場職員や養豚農家、先生方に常に質問できる環境で、畜産の知識は無論のこと、複雑なデータの中から問題点を明らかにし、物事を深く見る意識を養う機会となった。

日 程： 2016/8/8(月)-8/10(水)

参加学生： 3名

活動場所： 茨城県笠間市・東京大学大学院農学生命科学研究科附属牧場

備 考： 附属牧場 <http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/bokujo/>



乗馬体験



豚の世話

46. 森が社会に貢献するー持続可能な森づくりへの挑戦ー

1日目は、北海道演習林の森づくりや、北海道の植生、収穫調査の概要を学んだ。2日目、3日目は、収穫調査に同行し、木の状態を把握して伐採するものを決定し、番号札を付け、輪尺で直径を測り、野帳に木の形質や大きさを記録し、GPSに位置を記録するという作業を行った。4日目は、天然林施業試験地に同行し、巻き尺で直径を測って5年前のデータと比べ、成長率を測るための調査をした。膨大で地道な作業により演習林の森は守られていることを知った。

日 程： 2016/8/2(火)-8/8(月)

参加学生： 1名

活動場所： 北海道富良野市

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林

備 考： 附属演習林 <http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/hokuen/>



収穫木のサイズ計測と品等確認



天然林

47. 伊豆の体験活動ー南伊豆というー地域との連携に学ぶー

10月の活動では、樹木がうけた獣害を視察し、猪の解体から、その肉を挽肉にしてソーセージを作る作業を体験した。一つひとつの作業に夢中になれる面白さと、生態系から市場に至る過程を、身を持って知ることができた。3月の活動では、チェーンソーを用いた立木伐採や薪割りを体験した。南伊豆におけるまちおこしの取り組みや現状に触れ、一地域が抱える問題を肌身で感じる事ができた。

日 程： ①2016/10/8(土)-10/10(月)、②2017/3/22(水)-3/24(金)

参加学生： 4名

活動場所： 静岡県南伊豆町近郊

備 考： 樹芸研究所 <http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/jyugei/>



猪の解体



チェーンソーでの伐採

48. 北海道の遺跡博物館における学芸員体験と厳冬のオホーツク文化体験

真冬の北海道を訪れ、北海道の文化について知見を広めた。博物館の見学、資料整理、勾玉の製作体験、地元の人々との交流も行い、ところ遺跡の森では、展示資料の解説も行った。夕食は参加学生で自炊を行った。

日 程： 2017/2/14(火)-2/17(金)

参加学生： 5名

活動場所： 北海道北見市

東京大学大学院人文社会系研究科附属北海文化研究常呂実習施設、北見市ところ遺跡の森

備 考： 常呂実習施設 <http://www.l.u-tokyo.ac.jp/tokoro/index.html>

北見市「ところ遺跡の森」 <http://www.city.kitami.lg.jp/docs/7209>



博物館網走監獄



勾玉作り

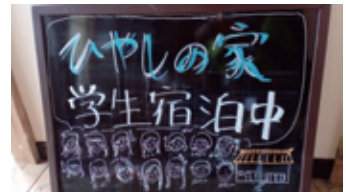
49. 農村版大学コンソーシアム木島平校 夏季講座 -集落に“学生の拠点”をつくろう！-

地方の集落のあり方について金沢大学の蜂屋准教授の講演会を聞いた後、フィールドワークの方法論に則って集落点検として村内の用水路や水源地の点検を行った。また、馬頭観音等の石碑などを周り、土地の風俗、成り立ちについての理解を深めた。集落カフェの企画運営を行い地域の人達に喜んで頂いた。参加者は古民家を改築した住居で、各人の得意分野を担当し共同生活をした。



木島平の風景

日 程： 2016/8/19(金)-8/24(水)
参加学生： 2名
活動場所： 長野県木島平村 糠千地区
備 考： Facebookページ「農村版大学コンソーシアム木島平校」
<https://ja-jp.facebook.com/nousonbunmei/>



共同生活の古民家

50. 地域いいところ発見プロジェクト ~フィールドワークから学ぶ地域の健康~

地域の人々の健康増進、地域医療向上のために、高校生から社会人まで多様な参加者がグループに分かれ地区散策をし、住民から生活の話聞き地域のプラスポイントを見つけそれを分析した。「課題を発見し解決策を考える」ではなく、「地域のいいところを考えることで、地域と接する」という発想が新鮮で、いいところを探すことで、住民や参加者同士が笑顔で触れあえた。最終日、より良い地区にするための提案を住民の前で発表した。



地区散策

日 程： 2016/8/16(火)-8/25(木)
参加学生： 2名
活動場所： 島根県雲南市
備 考： 雲南市 <http://www.city.unnan.shimane.jp/www/toppage/000000000000/APM03000.html>



いいところを基に地域アセスメント

51. スタートアップ支援活動~スタートアップを知ろう~

次世代の課題を根本から解決していくため、新しい技術やアイデアを持ったスタートアップを支援する企業でのインターンを通し、教育や防災、テック系大型イベントや地域復興分野の支援先を実際に訪問することで、スタートアップについて幅広く学ぶ機会を得た。また、様々な分野にまたがって幅広く社会貢献へと役立てようとするMistletoe株式会社の目的意識の高さを体感した。

日 程： 2016年8月上旬-8月下旬、定められた2週間
参加学生： 1名
活動場所： 東京都港区・Mistletoe株式会社
備 考： Mistletoe株式会社 <http://mistletoe.co/>

【海外プログラム】

01. 中国訪問＋キャンパスツアーと学生交流

企業訪問では、日系企業や中国で急成長している企業を訪問し、中国経済の発展の勢いを感じた。北京大学、清華大学、復旦大学の学生との交流では、中国の学生の学問に対する熱意を目の当たりに、モチベーションが上がった。特に印象的だったのは、中国都市部におけるICTの発展で、日本ではまだまだ普及していないサービスが街の至る所で利用され、人々の生活を確実に便利なものにしていった。日本メディアの中国報道に対する偏向性を強く感じた。

日 程： 2017/3/15(水)-3/24(金)

参加学生： 9名

活動場所： 中華人民共和国 北京、上海

備 考： 東大北京校友会・上海銀杏会

<http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/alumni/community/list.html>



北京大学



東大北京校友会の皆様と

02. 上海および上海近郊の地方都市を中心とした国際交流体験活動

大学訪問、企業訪問、観光などを行った。上海のテクノロジーの発展を身をもって体験すべく、電話番号や銀行口座をつくり、世界で中国が最も進んでいるといわれるアプリ、FINTECHを携帯電話に入れ、実際に生活する中で最大限に活用した。また南京大虐殺記念館を訪問し、現地の学生とのディスカッションでは、歴史を再考する機会も得た。訪問場所ではどこでも温かい歓迎を受け、戦争の被害を語り継いで、平和を願う気持ちは日中で同じであることを再確認することができた。

日 程： 2017/3/14(火)-3/24(金)

参加学生： 7名

活動場所： 中華人民共和国 上海と近郊

備 考： 上海銀杏会・東大北京校友会

<http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/alumni/community/list.html>



交通大学



和の夢

03. 大学・企業・文化体験 in 韓国 -韓国を知る、韓国から日本を見る-

ソウル大学の学生との交流を持ち、日韓関係、反日、嫌韓や大学生の日常まで幅広く話すことができた。企業訪問では、グローバル企業のサムソン、ベンチャー企業、大使館などを訪問し、文化体験では歴史的建造物や伝統衣装、お茶などを体験した。韓国人卒業生の家でのホームステイでは、充実した時間を過ごすことができた。実際にその国の人と交流を持つことによって、自国との考え方の違いに気づき、メディアの報道を鵜呑みにしてしまうことを避けられると強く感じた。

日 程： 2016/8/21(日)-8/27(土)

参加学生： 8名

活動場所： 大韓民国 ソウル、スウォン

備 考： 韓国東京大学総同門会、ソウル東大会

<http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/alumni/community/list.html>



日韓比較講義受講



文化体験

04. シンガポールでビジネスを学んでみよう

在シンガポールの卒業生を訪問し、多様な業種内容やシンガポールで働くこと、暮らすことについて、更には人生や価値観について伺った。質疑応答やディスカッションを通し、多くの人がアウトプットに至る過程において、自分の課題解決や目標達成のために自ら積極的に動く「能動的なインプット」を大事にしていることを感じた。またシンガポールの戦争や戦後の発展の歴史に触れる機会があり、異文化理解についても更に深めることができた。

日 程： 2016/8/27(土)-9/4(日)

参加学生： 5名

活動場所： シンガポール

備 考： 淡星会 <http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/alumni/community/list.html>



Nipsea Management Company



お世話になった淡星会の皆様と

05. 医学と平和

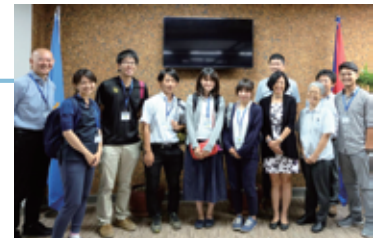
カンボジアのプノンペン、シェムリアップを拠点にし、世界機関であるWHOから、都心部の病院、郊外の病院、農村のNGOに至るまで、様々なphaseの医療に関わる現場を訪問し、それぞれの場所で活躍している邦人や現地職員より、紛争がもたらした保健制度破壊とその後の復興について学んだ。また、残虐な大量虐殺を後世に伝えるために作られたトゥールスレン博物館を見学し、不安定な政治がもたらした抑圧と悲劇の大きさを目の当たりにした。シェムリアップでは、JMASの事務所を訪問し、地雷・不発弾撤去現場を見学した。

日 程： 2016/8/3(水)-8/9(火)

参加学生： 5名

活動場所： カンボジア プノンペン近郊

備 考： 東京大学大学院医学系研究科国際地域保健学教室
<http://www.ich.m.u-tokyo.ac.jp/>



WHO事務所の皆様と



郡の拠点病院

06. 新興国インドでの体験活動-インド赤門会との交流・IIT-K 日本語授業サポート-

アグラのタージ・マハル、アグラ・フォートやデリーの国立博物館の見学で、五千年の歴史の中で培われてきた、インド文化の多様性を改めて実感した。インド赤門会の先輩方との交流は、進路を考える上でも非常に示唆に富む経験であった。IIT-Kではキャンパスツアーや授業の受講、日本語クラスのサポートなど、3日間共に過ごすことにより、より深い異文化交流を体験した。

日 程： 2017/2/12(日)-2/18(土)

参加学生： 6名

活動場所： インドニューデリーと近郊、インド工科大学 Kanpur

備 考： インド赤門会

<http://www.indiaoffice.dir.u-tokyo.ac.jp/jp/akamonkai/index.html>

東京大学大学院工学系研究科日本語教育部門

<http://www.jlscse.t.u-tokyo.ac.jp/>



インド赤門会主催による歓迎会



IIT-Kの学生との交流会

07. TOPS (Tokyo Oxford Programme of Summer)

前半2週間はオクスフォード大学等の教授による、法学、古典学、フランス文学の中から各自選択した4-5科目の授業を受け、3週間目に興味のある1科目について3000語のエッセイを作成した。後半の2週間は、ケンブリッジやエジンバラでセミナーや研究会に参加した。オクスフォード最終日には、プレゼンテーション大会があり、全員が5分間の自由テーマの発表を行い、教授陣から質問やコメント、評価を頂いた。世界第一人者の教授の授業を受けることができ、非常に貴重な体験となった。

日 程： 2016/8/7(日)-9/7(水)
参加学生： 11名
活動場所： イギリス オクスフォード大学、他
備 考： オクスフォード大学 クライスト・チャーチ
<http://www.chch.ox.ac.uk/>



少人数での授業形態



クライスト・チャーチでの送別夕食会

08. 英国ロンドン、海外で働くとは

国際機関、大使館、商社、銀行、研究所、メーカーと非常に幅広い分野の企業や機関を訪問し、海外で働く魅力ややりがい、大変さ等について話を伺い、質疑応答や懇親会では更に知識を深め、とても濃密な時間を過ごすことができた。UCLの学生との交流会ではいろいろなテーマで話し合い、親睦を深め、東大生側からは東大・伝統文化・モダンカルチャーという三つのテーマでプレゼンテーションを行った。

日 程： 2017/2/27(月)-3/3(金)
参加学生： 10名
活動場所： イギリス ロンドンおよび近郊
備 考： 英国赤門学友会
<http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/alumni/community/list.html>



日立レール車両基地



UCLの学生との交流

09. VE_italia・Veneto Experience

最初に地図を持たずにヴェネチアを歩き、自分の感覚を頼りに街の作り方、建築や雰囲気を感じて体験するフィールドワークを行った。続いて工房や美術館の見学、MITの学生やイタリア在住の様々な人々との交流を行い、ヴェネチア出身のカルロ・スカルパが設計したブリオン家の墓所での連日の観察訓練を通して体験を蓄積した。最終的に、今回の感覚と体験を自己内省に繋げた形にして、それぞれチームで発表を行った。感覚、内省を他者に表現する中で新たな自分と出会う機会になった。

日 程： 2017/3/18(土)-3/31(金)
参加学生： 13名
活動場所： イタリア ヴェネト州
備 考： Veneto Experience <http://www.venetoexperience.com/>



カルロ・スカルパ設計 ブリオン家墓地



ベネチアに3軒のみ残るフォルコア工房

10. フランスEcole Polytechniqueにおける研修(理系)

フランスにおける理系グランゼコールの最高峰のEcole Polytechniqueの授業に参加するとともに、現地学生と意見交換や文化交流を行い、ハッカソンに参加し工業製品を作成した。国連機関、研究所、美術館、大使館、海外企業など幅広い種類の機関を訪問し、その中で働いている方々に実際にお会いした。特に日本人や卒業生からは交流を通して仕事やキャリア形成などの話を伺い、将来に向けて自己形成やコミュニケーションへの考えを深める機会を持った。

日 程： 2017/2/19(日)-3/4(土)

参加学生： 10名

活動場所： フランス パリ

備 考： Ecole Polytechnique <http://www.polytechnique.edu>



ハッカソンの風景



Ecole Polytechnique 郡山先生と

11. アラブ首長国連邦の「いま」: 沸騰都市ドバイ, 未来都市マスダール, 石油都市アブダビ

ドバイとアブダビにある日系の諸機関を訪問し、そこで働いている本学卒業生との交流を通じて、日本人がUAEで働くことの意味を実感した。また、アブダビにありUAEの技術開発を担う「マスダール科学技術大学(MI)」および「ハリファ大学(KU)」、再生可能エネルギーの普及を地球全体で促進するための国際機関「国際再生可能エネルギー機関(IRENA)」を訪問し、現地の大学生との交流や研究者による講義を受講し、意見交換を行った。滞在中は、大使公邸や総領事公邸、UAE赤門会の夕食会に招待される機会にも恵まれた。

日 程： 2016/9/2(金)-9/10(土)

参加学生： 6名

活動場所： アラブ首長国連邦・アブダビ首長国、ドバイ首長国

備 考： 東京大学大学院工学系研究科電気系工学専攻

<http://www.eeis.t.u-tokyo.ac.jp/>

東京大学大学院新領域創成科学研究科国際協力学専攻

<http://inter.k.u-tokyo.ac.jp/>



マスダール科学技術大学の大学院学生と



ルブアルハリ砂漠にて

12. ハーバード大学医学部研究室の訪問・デスクッション

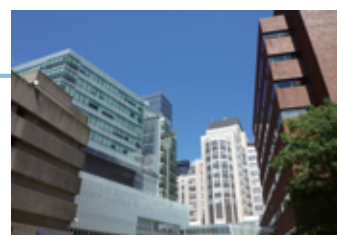
ハーバード医学部の研究室で基礎研究、臨床医、公衆衛生など様々な分野の研究者を訪問し、アメリカでの研究環境や体験などについて伺った。最先端の医学研究や医師になるための手順を知る。アメリカはインタラクティブな授業があり日米の教育の違いを感じた。また日米双方のそれぞれの良さを感じることもできた。学生の共同生活で 基本、夜は自炊をして過ごした。

日 程： 2016/8/12(金)-8/22(月)

参加学生： 6名

活動場所： アメリカ マサチューセッツ州

備 考： ハーバード大学医学部 <http://hms.harvard.edu/>



Massachusetts General Hospital



プログラム参加学生

13. Work experience in the international venture business in Boston

前半は主に、マサチューセッツ工科大学のブートキャンプに参加し、現地の大学院生と一緒に授業を受けた。後半はMITの教授による、プロジェクトマネジメントについてのワークショップに参加した。アメリカの研究者と、海外の教育に触れる体験をした。

日 程： 2016/8/22/(月)-8/31(水)
参加学生： 1名
活動場所： アメリカ マサチューセッツ州
備 考： Global Project Design <http://www.gpdesign.com/>



MIT

14. 「日本とアメリカの現在と未来：ドキュメンタリー映像制作 @ロサンゼルス」

「日本とアメリカの現在と未来」をテーマにドキュメンタリー・フィルムを作成し上映した。活動は渡米前の事前学習から始まり、まずテーマを絞り込み、質問内容の具体化やアポ取りなどを行い、現地ではインタビューと撮影を行った。インタビューでは、日米それぞれの考え方や慣習の違い、文化差の複雑さに気づく場面もあった。また、全米日本人博物館では日系人の歴史や、ゲティー博物館ではアメリカ文化について学ぶ機会を得た。帰国後は3ヶ月かけて編集作業を完成させた。

日 程： 2016/8/22(月)-9/4(日)
参加学生： 6名
活動場所： アメリカ カリフォルニア州
備 考： 南加東大会 <http://www.nanka-todaikai.com/>



現場でのインタビューと撮影

15. アメリカで事業をすることの素晴らしさとチャレンジ（内側からアメリカ社会をみてみよう）

ベンチャー、金融、不動産、大学での研究、NGOと多岐に渡る分野の卒業生を訪問し、仕事内容やキャリアパスについて話を伺った。アメリカという世界で生き抜いてきた卒業生達は、社会や日本に対する見方や経済に対する問題意識が大きく異なっていて、自分達の甘さに危機感を覚えた。同時に、まだまだ学ぶべきこと、知るべきことが多くあると実感した。訪問後には食事会や野外音楽会でのピクニックなど、シカゴならではの楽しみ方も体験した。

日 程： 2016/8/4(木)-8/10(水)
参加学生： 9名
活動場所： アメリカ イリノイ州
備 考： シカゴ赤門会
<http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/alumni/community/list.html>



ミシガン湖



卒業生の皆様と送別夕食会

16. 国連(NY)での会議に学生ボランティアとして参加

ニューヨーク国際連合本部ビルで55th Session of Commission for Social Developmentが開催され、国際NGO団体、International Longevity Centre Global Allianceの学生ボランティアとして会議を傍聴し、各国の代表による貧困撲滅という目標に対する自国の状況やコミットメントについてのスピーチを聞くという、貴重な機会を体験した。この会議の他にも、世界各国で活動しているNGO団体によるサイドイベントにも参加し、人権問題、社会問題についての理解を深めた。

日 程： 2017/2/6(月)-2/10(金)

参加学生： 3名

活動場所： アメリカ ニューヨーク州

備 考： さつき会アメリカ

<http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/alumni/community/list.html>



会議を傍聴



プログラム参加学生

17. 有機農場での Community Supported Agriculture 体験 (米国)

農作物の収穫や雑草抜き、苗の植え替えや羊毛のゴミ取り等、幅広く農作業を体験した。農場では、自分達が食べるものを畑で育て、育てた家畜の毛を刈って絨毯や衣類を作っている。その様子を見て、人間の暮らしとは究極的には自然の恵みの上に成り立っているものなのだと思わされた。作業時間外では、イェール大学の学生達との交流や、ニューヘイブンの観光、テント生活や自炊と、日常では体験できない数々の経験をする事ができた。

日 程： 2016/8/20(土)-9/2(金)

参加学生： 4名

活動場所： アメリカ コネチカット州

備 考： NY銀杏会 <http://www.ny-ichokai.org/>



かぼちゃの収穫



お世話になった農場の皆様と

18. オーガニック農場での Sustainable agriculture 体験 (米国)

朝6時半に1日の業務の説明があり、朝食を挟み13時過ぎまで農作業をした。作業内容は、農作物の収穫、耕作、雑草抜き、鶏の世話、ヤギの爪切り、種まき、堆肥作りと多岐に渡り、肉体労働の大変さと喜びを実感した。火曜日はCSAのマーケットがあり、木曜日は隣の小学校の生徒が10-20名程来て、一緒に農作業をした。自由時間には近くのプリンストンの街や大学に行き、大学構内や町の散策、湖でカヌーの体験など、充実した時間を過ごした。

日 程： ①2016/8/21(日)-9/3(土)、②2016/9/4(日)-9/17(土)、
③2017/3/5(日)-3/18(土)

参加学生： 9名

活動場所： アメリカ ニュージャージー州

備 考： NY銀杏会 <http://www.ny-ichokai.org/>



小学生と一緒に農作業



お世話になった皆様と

19. 世界の情報発信の中心地、ニューヨークの脈動を体感してみよう

ニューヨークで活躍する弁護士や裁判官、金融、国連、大学、NPO法人、アパレル業界など、様々な職種で働いている卒業生や日系アメリカ人の方々から、話を伺った。短期間でこれほど多くの人達に出会え、十人十色の話を伺えた経験は、大変有意義で貴重な機会となり、世界から見た日本を実感として体験することができた。又、今回初めて導入された自主運営プログラムでは、各自が興味を持っているテーマに沿って渡航一月ほど前から準備を進め、大きな達成感を得た。

日 程： 2016/8/23 (火)-8/30 (火)
参加学生： 10名
活動場所： アメリカ ニューヨーク州
備 考： NY銀杏会 <http://www.ny-ichokai.org/>



ミキハウス



シカゴ大学

【研究室プログラム】

01. 再生医療の研究開発に触れる

東大病院細胞プロセッシングセンターにて再生医療の研究開発の現場を見学した。具体的には軟骨細胞を培養し、培養した軟骨細胞を薄く切断して染色液で見やすくし、顕微鏡下でどのくらい組織が成長しているかを確認した。また、それが実際にどのような医療分野で応用されているかについても学んだ。

日 程： 2016年10月-2017年1月

参加学生： 1名

活動場所： 本郷キャンパス 医学部附属病院トランスレーショナルリサーチセンターCPC

備 考： 東京大学大学院医学系研究科 軟骨・骨再生医療寄付講座

<http://square.umin.ac.jp/ct-e/t-e/index.html>

02. 「医学の知」の体験—手術とは何か？体内臓器を探ってみましょう！

胃食道外科の手術室で、医師の解説を受けながら腹腔鏡や食道切除手術を見学した。通常であれば絶対に入ることのできない手術室の中で、どのような事が行われているのか間近で見ることができ、先入観よりも自分の目で見ることの大切さ、人間の体の中の美しさ、医療従事者の想いを感じた。また、執刀医、麻酔科医、看護師が協力しながら6時間-8時間にも及ぶ手術の中で、常に集中し続けている姿に感銘を受けた。



東大病院の手術見学

日 程： 2016/8/2(火)-8/5(金)

参加学生： 2名

活動場所： 本郷キャンパス 医学部附属病院

備 考： 東京大学医学部附属病院 消化管外科学

http://www.h.u-tokyo.ac.jp/patient/depts/ses_md/index.html

03. 臨床の死生学

家庭医と死生学、キューブラー・ロスに関する講義を受けた後、患者や家庭医から実際の体験談を聞き、議論した。王子生協病院の緩和ケア病棟の訪問では、実際に多くの死に直面している医師やソーシャルワーカーから話を聞いた。死というテーマは身近に不幸があった時に考えるのみで、それは感情的なものになりがちだが、今回死について真剣に考え、理解を得ることができた。これからの人生で何を大事に生きていけばよいのか、手掛かりを得た。



日 程： 2016/8/22(月)-8/26(金)

参加学生： 2名

活動場所： 本郷キャンパス 医学部

備 考： 東京大学大学院医学系研究科 医学教育国際研究センター

<http://www.ircme.m.u-tokyo.ac.jp/>



当事者の体験談を受講

04. 農地環境サンプルの放射性核種の検出と測定

福島放射能汚染について、震災とそれに続く放射能汚染や東大の取り組み、森林の汚染の状態と今までの研究の進捗についての講義を受け、実際に福島で採取された土・植物に含まれる放射性物質の検出を行った。手順としては①資料を計測用の瓶に詰める②計測機器で放射性核種が出す放射線を検出する③検出されたエネルギースペクトルから放射性核種を推定する、という流れで行った。活動を通して、測定する農産物等の処理、検出、測定を行うことで農地環境の実態に触れた。



実験の様子

日 程： 2016/8/2(火)
参加学生： 1名
活動場所： 本郷キャンパス 農学部2号館
備 考： 東京大学農学部の復興支援
<http://www.a.u-tokyo.ac.jp/rpjt/index.html>

05. 植物バイオテクノロジー体験

活動ではマメ科植物に共生窒素固定細菌である根粒菌を接種し、形成された根粒の内部において細胞内共生が成立している様子を観察すると共に、根粒菌により大気中の窒素ガスがアンモニアに還元される活性を測定し、マメ科植物が微生物との共生により窒素を獲得する戦略をとっていることを理解した。また、ラボのセミナーに参加し、研究報告や論文の紹介を聞く機会にも恵まれた。



事前学習の様子

日 程： 2016/9/5(月)-9/16(金)
参加学生： 1名
活動場所： 弥生キャンパス
備 考： 東京大学生物生産工学研究センター
<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/biotec-res-ctr/>

06. 脳・身体と精神のシステム論的研究への誘い

プログラムを管理されている先生の研究室に入って研究を進めていくための基礎になる学習を進め、プログラム参加者全員が集まって各週で行われる研究論文の輪読会がおもな活動内容だった。輪読会では各会担当者が一名割り当てられ3つほどの論文をスライドショーにまとめ、1時間ほどの発表を行うというものだった。授業では聞くことの出来ない再信の知見を教えていただき、今後の研究する上で有意義な体験をした。

日 程： 2016/8月、3月の長期休暇中、もしくは9月-2月の土曜ないし平日夕方、夜など(本人と相談の上で決定)
参加学生： 9名
活動場所： 本郷キャンパス 教育学部棟
備 考： 東京大学大学院教育学研究科 身体教育学コース
<http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~tkweb/>

07. クラスタ計算機の試作と並列計算

クラスタ計算機を組み立てた後、並列計算の仕組みを学びMPIを使ってネイピア数の計算の実装をした。その後、それぞれの興味に遇わせての並列計算の実装をした。研究室の方々が細かく質問に回答してくださり、並列計算に対する理解が深まった。

日 程： 2017/3月、定められた10日間程度
参加学生： 5名
活動場所： 柏キャンパス 環境棟
備 考： 東京大学大学院新領域創成科学研究科人間環境学専攻
奥田研究室 <http://www.multi.k.u-tokyo.ac.jp/>



事前オリエンテーション

08. 水循環・水資源研究短期体験

jupyterを用いたプログラムの基礎を学び、データ解析に必要な線形代数の知識を教わった。その後、アマゾン川の流量の毎日の変化を表したデータが提供され、それを特異値分解によって解析することで、流量変化の裏に隠れた様々な周期変化を見つけ、またその変化の理由を分析した。

日 程： 2016/8月-2017年3月
参加学生： 3名
活動場所： 生産技術研究所
備 考： 東京大学生産技術研究所 沖研究室
<http://hydro.iis.u-tokyo.ac.jp/indexJ.html>

09. 機能分子をつくってみよう(機能性錯体化学研究室短期体験)

石井研究室で過去に開発されたビタミンC検出プローブの合成とその機能計測を行った。このプローブは、現在がん治療薬として注目されているビタミンを患者に投与した際に、ビタミンCの体内での分布を可視化するのに利用されることを目的としている。まず2日間で反応を行い、次に目的産物を精製し、最後に実際にビタミンCと反応させて蛍光強度が増大することを確かめた。

日 程： 2017/2月-3月、各自定められた2週間
参加学生： 2名
活動場所： 生産技術研究所
備 考： 東京大学生産技術研究所物質環境系部門
石井研究室 <http://www.k-ishiilab.iis.u-tokyo.ac.jp/>



合成作業

10. 量子力学・表面科学短期体験

英語の論文を読み、論文内容についての発表を行った。その上で、論文内容に関連する実験を体験した。テーマとして、電子の波動性、分子運動の量子化と緩和、走査トンネル顕微鏡による単原子の観察、光電効果と電子分光のいずれから選び、実験の原理を学習し、実際の実験を体験した。最終段階として、研究の背景、目的、実験手法、結果と考察などをまとめ、10分程度のプレゼンテーションを行った。

日 程： 2017年3月、定められた2週間
参加学生： 1名
活動場所： 東京大学生産技術研究所
備 考： 東京大学生産技術研究所基礎系部門 福谷研究室
http://oflab.iis.u-tokyo.ac.jp/Main/home/home_j.html



活動最終日の発表の様子

11. 海洋微生物ナノ計測体験

生産技術研究所にて教員・外部講師の指導の下、海洋微生物の基礎的知識について学習した後、三崎臨界実験所および東京近郊の海水浴場に行き回水産プロを採取し保存した。このサンプルを様々な穴径のマイクロフィルターで逐次的に濾過し、海水中に含まれる微粒子成分を平均粒子径によってサイズ画分した。次に原子間力顕微鏡を用いてマイクロフィルター表面をナノメートル領域で観察し、それぞれの画分にいる海洋微生物を微細構造から同定した。

日 程： 2016/7-9月、定められた2週間
参加学生： 1名
活動場所： 東京大学生産技術研究所
備 考： 東京大学生産技術研究所 藤井研究室
http://www.microfluidics.iis.u-tokyo.ac.jp/index_j.html



活動最終日の発表の様子

12. 知能移動ロボットの行動と制御

教育版レゴマインドストームを使い、ブロックをつかみ運ぶロボットの製作とそれを動かすプログラムを作ることに挑戦した。制作過程での試行錯誤や、ものづくりの楽しさを再認識し、プログラムの基礎も学ぶことができた。教科書での知識を、実際に現実に使ってみるといふ機会を得られた。

日 程： 2016/9/5(月)-9/9(金)
参加学生： 2名
活動場所： 柏キャンパス 人工物工学研究センター
備 考： 東京大学人工物工学研究センター 移動ロボティクス研究室
<http://www.race.u-tokyo.ac.jp/otalab/index-j.htm>



作成したロボット

13. モーションセンサによる人間行動認識手法の研究

モーションセンサを利用して日常の行動を認識する手法を研究した。行動ごとに加速度や姿勢情報の波動を分析し、どのような特徴を抽出すれば歩幅を算出できるか考察し、身体に取り付けたセンサの情報をを用い実験した。

日 程： 2017/2/1(水)-2/7(火)

参加学生： 1名

活動場所： 柏キャンパス 環境棟、本郷キャンパス 工学部2号館

備 考： 東京大学大学院新領域創成科学研究科 人間環境情報学分野
山田・割澤研究室 <http://www.lhei.k.u-tokyo.ac.jp/>

14. 宇宙とラボをつなぐプラズマ物理

プラズマ実験装置の理論や実験手法を教わり、データの解析を行った。惑星の回りの磁気圏を研究室の装置で再現しようと試みた。難しい理論面は先生、学生の方々より丁寧な説明を受けた。研究室の先生や学生の姿を見て、学問に対するモチベーションが高まる実験と体験をした。

日 程： 2016/8月-9/19(月)のうち1週間

参加学生： 2名

活動場所： 柏キャンパス 基盤科学実験棟

備 考： 東京大学大学院新領域創成科学研究科
吉田・西浦研究室 <http://www.ppl.k.u-tokyo.ac.jp/>



小型プラズマ閉じ込め装置

15. 利根川水系におけるニホンウナギの生態学的研究

川岸の草が生い茂る浅瀬で電流を発生させ、電気ショックで動けなくなったウナギを採集し生態系を調査した。電気ショックを発生させる重い機械を背負い電気を流す係と大きな網を持つ複数人で連携しての作業だったのでチームワークが重要だった。理系の研究室の様子や先生、院生の話を聞くことができ、このようなフィールドワークの手法と目的を学んだ。

日 程： 2016/9/17(土)

参加学生： 1名

活動場所： 柏キャンパス大気海洋研究所、利根川

備 考： 東京大学大学院新領域創成科学研究科 自然環境学専攻
海洋生物圏環境学分野 <http://mbe.aori.u-tokyo.ac.jp/>



川岸で先生と

16. 発達障害のある子どもを対象とした認知心理実験の現場体験

認知心理実験を間近で体験し、こどもを対象とした心理実験の様子や知能検査のやり方、その意味などを知ることができた。主に被験者の送迎や待合室での対応など実験補助を行った。発達は一人一人異なり、同じ自閉症スペクトラムでも多くの個性があるため、それぞれにしっかり向き合う重要性和、発達障害のある子供の家族をサポートする社会体制の必要性を学んだ。

日 程： 2016/8/12(金)-8/21(日)

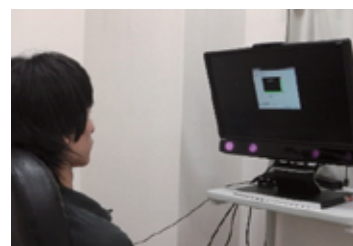
参加学生： 1名

活動場所： 駒場キャンパス 進化認知科学研究センター

備 考： 東京大学大学院総合文化研究科 教養学部 長谷川研究室
http://beep.c.u-tokyo.ac.jp/index_japanese/Home.html



実験補助



視線計測

17. DO-IT (Diversity, Opportunities, Internetworking and Technology) Japan

多様な障害のある児童、生徒、学生のプログラム参加をサポートした。移動を見守ったり、必要に応じて手助けや相談相手になった。話を通じて、普段どんな困難に直面しているのか知ることができた。合理的配慮があれば「健常者」と同じように活動できることや障害＝個性という概念を受け入れられるようになった。

日 程： 2016/8/7(日)-8/11(木)

参加学生： 6名

活動場所： 駒場Ⅱキャンパス 東京大学先端科学技術研究センター

備 考： DO-IT Japan <http://doit-japan.org/2016/>

18. 天文学・宇宙物理学における最先端研究を体験する

ハッブル宇宙望遠鏡で観測されたデータを用いて、星形成銀河の星質量と星形成率の関係を求めるという目的で、プログラミングの基礎を学びながら、理論も学習した。他の人と協力しながら長い期間をかけてプログラミングに集中して取り組み、研究室の方々に気軽に質問することができる環境で短期間により多くの知識を身につけることができた。

日 程： 2016/8/2(火)-9/21(水)

参加学生： 2名

活動場所： 柏キャンパス 宇宙線研究所

備 考： 東京大学宇宙線研究所 観測的宇宙論グループ
<http://cos.icrr.u-tokyo.ac.jp/>
東京大学宇宙線研究所
<http://www.icrr.u-tokyo.ac.jp/>



宇宙線研究所にて

19. 演習環境をもちいたサイバーセキュリティ体験活動

マスメディアを通じては得ることのできないサイバー攻撃に関する実情についての講義後 演習を行った。班対抗で先生方のサイバー攻撃を防ぎつつ、ネットショッピングサイトを運営し、サイト運営状況を発表。講師陣による講評と順位発表があった。防御には多大なコストがかかること、社会の構造、企業の動きなどを含めて学び、情報リテラシーを身につけることができた。

日 程： 2016/8/31(水)-9/2(金)

参加学生： 15名

活動場所： セキュア情報化社会研究 寄付講座八重洲オフィス

備 考： 東京大学大学院情報学環 セキュア情報化社会研究寄付講座
<http://sisoc-tokyo.iii.u-tokyo.ac.jp/>



サイバー攻撃に対処

20. 生体分子から動物個体まで～生物化学の研究体験

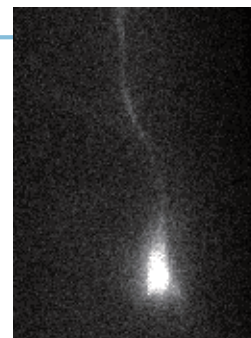
ゼブラフィッシュの受精卵へのDNAマイクロインジェクション、マウスの記憶に関する行動測定、構造決定がなされていないあるタンパク質の結晶化等々、自分の手を動かし実験を行った。生物学には物理・数学・情報科学が必要で繊細な作業の膨大な蓄積によって偉大なる発見が誕生すること、最先端の現場で研究する責任の重大さも学んだ。研究者としての一端を体験することができた。

日 程： 2016/8月-9月、定められた5日間

参加学生： 7名

活動場所： 本郷キャンパス 理学部3号館

備 考： 東京大学理学部生物化学科
<http://www.bs.s.u-tokyo.ac.jp/biochem/>



NaClの濃度変化に対する神経細胞
ASERの反応の計測

Ⅲ ふるさとインターンシップ実施概要及び活動報告

●概要

平成 28 年度は体験活動プログラム参加者募集に加え「ふるさとインターンシップ」として、活動地域を出身地とする、またはその地域に関連・関心のある学生を対象に参加者募集を行いました。自治体での行政現場や、地元企業や地域特有の産業の現場を体験の場とすることで、その地域との繋がりを得られると同時に、様々な気づきや成長を感じることができる活動となることを目的として、平成 29 年 3 月に実施しました。

●ふるさとインターンシップ実施データ

<プログラムの件数および募集人数>

○提供プログラム数：2 件、活動実施プログラム数：2 件、募集人数：12 名

<出願、参加状況>

○ 総募集人数 12 名に対し、出願者数は 16 名(133%:募集人数比)、出願者のうち、参加者は 12 名(75%:出願者数比)。

区分	総募集人数	出願者数	参加者数	不採択者
ふるさと インターンシップ	12 名	16 名 〈133%〉	12 名 《75%》	4 名 《25%》

〈 〉内は募集人数との比率、《 》内は出願者数との比率
不採択者数には採択後に参加を辞退した者の数を含む。

<採択者の属性>

◆学年別内訳

○ 参加者 12 名のうち、学部前期課程学生は 7 名(54%)、学部後期課程学生は 5 名(46%)。

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	計	男子	女子
法			1 名	1 名			2 名	1 名	1 名
医									
工			1 名				1 名	1 名	
文			1 名				1 名	1 名	
理									
農									
経済			1 名				1 名	1 名	
教養	2 名	5 名					7 名	4 名	3 名
教育									
薬									
計	2 名	5 名	4 名	1 名			12 名	8 名	4 名

教養学部前期課程学生の科類別内訳

1 年 文科二類 1 名、文科三類 1 名

2 年 文科一類 2 名、文科三類 1 名、理科一類 2 名

01. 明石市役所での就労体験事業

政策部政策室を中心に市役所内の各部署(シティセールス課、市長室、市民図書館など)において、それぞれの業務に従事した。政策室では、市役所業務を概観、議会傍聴やテーマ(明石の魅力のPR方法など)について政策提言を行った。シティセールス課では再開発ビルにおけるイベントの準備、図書館では、司書の業務や、赤ちゃんへの読み聞かせ活動に参加し、子育て施策と図書館の連携を垣間見た。市長室では市長と職員の打合せや、市長を交えた協議会へ参加した。また、当初はプログラムの予定になかった再開発ビルでのイベントの運営補助を行った。

日 程： 2017/3/1(水)-3/14(火)
参加学生： 2名
活動場所： 兵庫県明石市内
備 考： 明石市 <https://www.city.akashi.lg.jp/>



明石市役所

02. 今地方の企業が面白い！地域に根付く中小企業の魅力に触れるシゴト旅

前半は能登プログラムとして七尾市で5つの地元企業(御祓川、田尻虎蔵商店、ホテル海洋、スギヨ、天池合維)を訪問した。民間まちづくり会社の御祓川において、取材のための基礎事項を学び、各企業の見学、経営者へ取材し、それぞれが抱えている課題について学び、市全体を活性化するため各企業が果たすことができる役割について、話し合った。最終日にはグループで能登の中小企業が抱えている課題と解決策について発表を行った。後半の金沢プログラムでは、県庁において「働く」ことに関するワークショップ、またSIM石川2030という自治体運営の仮想ゲームを行い自治体運営の難しさを体験した。最終日は、県外出身者の県内就職率を上げるという課題解決のためグループワークを行った。

日 程： 2017/3/13(月)-3/17(金)
参加学生： 10名
活動場所： 石川県能登地域及び金沢市内
備 考： 株式会社御祓川 <http://notoryugaku.net/>



能登プログラム最終日の発表

IV 体験活動プログラム活動報告会

2017年2月28日(火)、本郷キャンパス工学部2号館213教室にて、体験活動プログラム報告会を開催した。プログラムに参加した学生、学生を受け入れた学外関係者及び本学教職員等約120名が出席した。

農学部 姫野隼太郎と教養学部前期課程の山口 空の進行で開会した。まず五神 真総長より、国際交流体験、文化体験、フィールドワーク体験、農林水産業体験や地域体験などの体験を通じて「多様性の尊重」や「自己を相対化する視野」を養う体験活動の重要性と、学生に様々な活動の機会を与えてくださった受入関係者への謝辞が述べられた。



司会の山口 空(左)と姫野隼太郎(右)

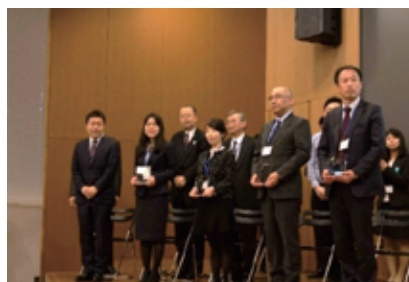


五神総長の挨拶

続いて、体験活動プログラムの発展に顕著な功績のあった個人・団体に感謝の意を表し功績をたたえる「特別功労賞」授与が行われ、受賞の加賀市観光戦略部様、美深町様、Ecole Polytechnique様と欧州フランス赤門会様、Orchard Farm Organics様、ニューヨーク銀杏会様へ記念楯が贈られた。

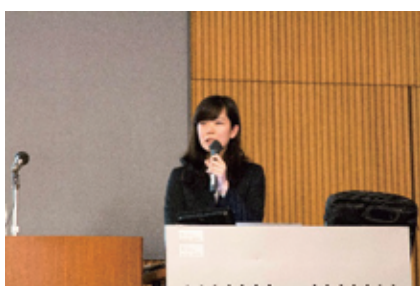


特別功労賞授与の様子



特別功労賞受賞の皆様

参加学生による活動報告の前に、本学教育学研究科の唐 音啓が福井県池田町の体験活動プログラムに同行し、観察やインタビューを行った結果から考察した体験活動プログラムの効果・評価を報告した。



教育学研究科 唐 音啓



会場の様子

続いて、5つのプログラム(美深町「農業・牧場作業体験@北海道」、種子島「おじやり申せ種子島! 宇宙に最も近いダイブな島まるごと体験プログラム」、アメリカ「国連(NY)での会議に学生ボランティアとして参加」、鹿児島県「困難を抱えるこども達の自然体験活動をサポート! ~海で・山で・川で~」、UAE「アラブ首長国連邦の「いま」: 沸騰都市ドバイ、未来都市マスタードール、石油都市アブダビ」)に参加した学生が、体験活動から学んだことや将来に活かしたい経験等について報告した。

学外機関からは、美深町観光協会の小栗 卓氏、西之表市役所の岩下栄一氏、五十嵐 悠氏、独立行政法人国立青少年教育振興機構の佐々木由香氏から学生を受け入れた感想などのお話があり、さつき会アメリカの大迫政子様からはメッセージを頂いた。



美深町「農業・牧場作業体験@北海道」



美深町観光協会 小栗 卓氏



「おじゃり申せ種子島！宇宙に最も近いディープな島まるごと体験プログラム」



西之表市役所 岩下栄一氏、五十嵐 悠氏



「国連(NY)での会議に学生ボランティアとして参加」



「困難を抱えるこども達の自然体験活動をサポート！～海で・山で・川で～」



国立青少年教育振興機構 佐々木由香氏



「アラブ首長国連邦の「いま」：沸騰都市ドバイ、未来都市マスタートール、石油都市アブダビ」



工学系研究科 中野義昭教授(左)
新領域創成科学研究科 中山幹康教授(右)

最後に南風原朝和理事・副学長より、体験活動プログラムの特徴である参加学生の変化、成長、困難への対応を客観的に評価する取組について説明と、受入関係者への感謝の言葉が改めて述べられた。

報告会後の懇談会は、学内外の関係者が活動を振り返り、意見交換をする有意義な交流会となった。今年度の報告会及び懇談会を実施するにあたり、約20名の学生が企画・立案、当日の司会、受付及び会場案内などの役割を担い主体的に運営に参画したことは、本プログラムにおける成果の一つとなった。



南風原朝和理事・副学長の挨拶



運営に携わった学生スタッフ

平成 28 年度体験活動プログラム報告会

日時：平成 29 年 2 月 28 日（火）
15:00～

場所：工学部 2 号館 213 教室
(本郷キャンパス)

式 次 第

一．開 会

一．総長挨拶 【五神 真 総長】

一．特別功労賞授与

一．プログラム概要と効果 【唐 音啓 教育学研究科修士課程 1 年】

一．活動報告

◆農業・牧場作業体験@北海道

◆おじゃり申せ種子島! 宇宙に最も近いディープな島まるごと体験プログラム

◆国連 (NY)での会議に学生ボランティアとして参加

◆困難を抱えるこども達の自然体験活動をサポート! ～海で・山で・川で～

◆アラブ首長国連邦の「いま」: 沸騰都市ドバイ, 未来都市マスタードール,
石油都市アブダビ

一．理事挨拶 【南風原 朝和 理事・副学長】

一．閉 会

《司会》農学部3 年 姫野隼太郎

教養学部前期課程理科二類2 年 山口 空

Hands-on Activities 2016

Debriefing Meeting

Date: (Mon.) 28 February 2017, 15:00~

Place: Rm. 213, Faculty of Engineering Bld.2
(Hongo Campus)

【MC: Juntaro Himeno, Sora Yamaguchi】

(15:00-15:05)

Opening

(15:05-15:10)

Message from the President 【Makoto Gonokami, President】

(15:10-15:25)

UTokyo Award for Distinguished Contribution to the Hands-on
Activities 2016

(15:25-15:35)

Summary and Evaluation 【Onkei To, 1st Year, Graduate School of Education】

(15:35-16:50 15 mins for each program)

Presentations

- ◆ Work experience on farms in Hokkaido
- ◆ Welcome to Tanegashima! Agricultural/rural-based experience on the island
- ◆ Volunteer work during the ‘International Civil Society Organization Conference’ at the United Nations, NY
- ◆ Supporting nature activities for mentally challenged children!
- at the sea, mountain and river -
- ◆ UAE’s “Present”: Dubai, Masdar and Abu Dhabi

(16:50-16:55)

Message from the Vice President 【Tomokazu Haebara, Vice President】

(16:55-17:00)

Close



体験活動プログラム Hands-on Activities

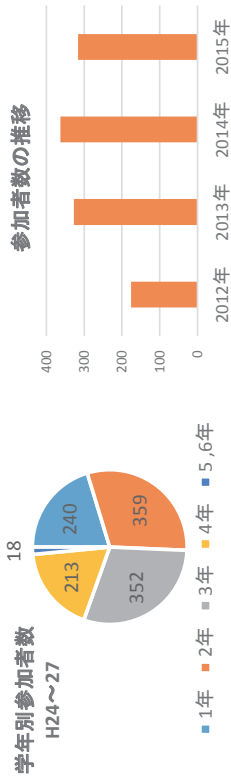


非公認キャラクター
もりかも

体験活動プログラムとは

東京大学の学部学生が、今までの生活と異なる文化・価値観に触れるプログラムです。新しい考え方や生活様式を学び、「知のプロフェッショナル」に必要な基礎力である、自ら新しいアイデアや発想力を生み出す力を身に付けます。

東京大学独自のプログラムとして平成24年度から国内外問わず実施され、ボランティアなど社会貢献活動、国際交流、農林水産業・自然体験や地域体験、学内研究室体験など、多様なプログラムで構成されています。



体験活動プログラムの効果 ※平成27年度

体験活動プログラムに参加する効果を、プログラム終了後に参加学生が提出する活動報告書に加え、東京大学教育学研究科教育心理学コースの大学院学生が行う質問紙調査による心理学的な成果測定、プログラムに調査者が参加・同行する参与観察、さらに面接調査により検証しています。

質問紙調査による効果評価

体験活動の前後で、2項目で変化があった。

1. 社交性や積極性に相当する「外向性」値と、責任感や忍耐力に関連する「誠実性」の高まり
2. ストレス耐性の高まり

参与観察

中国の大学・企業訪問参加学生の変化を、活動観察やインタビュー等から考察した。

⇒ 国同士の間の理解や友好関係、認知や価値観の変化、グローバル人材の育成への効果が示唆された



オーガニック農場 ボランティア(アメリカ)



漁業体験(三崎臨海実験所)



森林フィールド調査 (東京大学北海道演習林)



イオン液体実験(新領域創成科学研究科)



地方自治体就労体験(三重県)

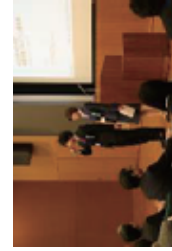
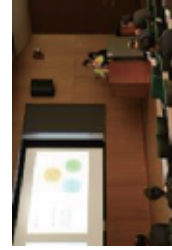


卒業生の職場OECD訪問(フランス)

参加学生の感想

理系の専門領域である医療が、医療の範囲に留まらず、社会と深く関わりあっていることを理解しました。そして、専門領域だからといって医療を遠い存在と思っはけいせず、社会が積極的に協力し、支援していかなければならないことも学びました。(公益財団法人イーターンジップ)

今後もっと成長するために、これまでの私が経験していたような狭い世界ではなく、広い世界に出、多様なタイプの方々との関わり、会話をしていく必要があると感じました。(石垣島 現地文化体験)



参加学生が活動について発表する報告会は、参加学生有志が司会や誘導を務めます。

本プログラムは学生受入先の学内外関係者のご協力で成立しています。

東京大学本部学生支援課 体験活動推進チーム

taikenkatsudou.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp 03-5841-2541/2542

http://www.u-tokyo.ac.jp/stu01/h19_j.html





平成28年度 体験活動プログラム活動報告

作成

平成29年5月

編集

東京大学 教育・学生支援部 学生支援課 体験活動推進チーム

住所

〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1

電話番号

03-5841-2541/2542

URL

http://www.u-tokyo.ac.jp/stu01/h19_j.html